

# ぶらりわが街宮沢界限

## (29) 農村から軍需・住宅産業都市へ ーIIーIー 軍需産業の進出

市域が農村から軍需産業都市に変貌に至ったのは、航空機メーカー昭和12年(1937)昭和飛行機工業株式会社が工場を設立、昭和14年(1939)名古屋工廠(こうしょう)名古屋から進出開設し、戦争が進む中で事業を拡大していき、従業員住宅が建てられ、桑園(そうえん)地帯は新たな住宅が建ち並ぶようになり、人口・所帯数も急膨張している、市域の様相はこうして一変し農村色は急激に薄れていった。

市域が軍需産業都市へ発達、変貌した近代工場であった、昭和飛行機株式会社・名古屋工廠と地域社会の歴史を紹介します。

名古屋工廠＝陸軍航空工廠一大正12年(1923)に名古屋(現・熱田区六野町)に設立。昭和12年(1937)「陸軍立川飛行場」に陸軍は自分のところに航空機の製造設備を持ってない。海軍は広島県呉市にあり航空機を製造していた。陸軍も製造施設を作る必要があると航空工廠設立構想が持ち上がる。13年(1938)11月立川飛行場近くに移転建設を決定。14年(1939)9月「名古屋工廠立川兵器製造所」として、所在＝東京府北多摩郡昭和村大字福島に開設。15年(1940)4月1日陸軍航空工廠令により「陸軍航空工廠」と改称。16年(1941)4月1日「陸軍航空工廠技能者養成所」設立(昭和町(\*同年1月1日昭和村から町へ施行)中神、築地)同年10月10日航空工廠の工員は軍属となる。戦況悪化により19年(1944)7月から航空工廠の疎開が始まる。(9月完了)部品加工部門＝西多摩郡氷川(小河内ダム建設用鉄道トンネル)、山梨県大月、神奈川県藤野町。機体部門＝埼玉県武蔵高萩(旧航空士官学校分校跡)。発動機部門＝石川県金沢市(大和紡績工場跡)。さらに、20年(1945)4月技能者養成所＝埼玉県児玉町へ疎開。20年4月4日にはB29爆撃により本部建物壊滅。終戦により同年9月20日航空工廠解散。

{規模} 敷地＝30万5000坪 建物＝5万7000坪 工作機械＝1,190台 当初の職員150人 工員＝3,000人 \*19年8月20日現在の最盛期の総数14,500人(内、2,500人応召)

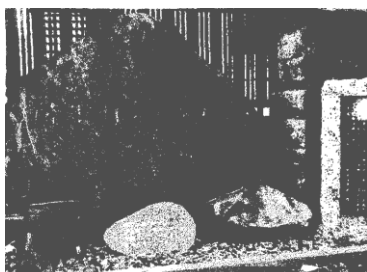
- 青梅鉄道「東中神駅」17年(1942)7月1日開設＝従業員の通勤のため陸軍が配慮を要請。
- 八清(はつせい)の住宅街(現玉川町三丁目付近)＝東中神駅を南に八清通りを少し下ると、東側にロータリーがあります。ここに、その中心である管理事務所(現玉川会館)がありました。この辺りは「八清」とよばれていました。名古屋工廠で働く人々の住宅が必要となり、一面の桑畑であったこの地で、陸軍の依頼により集団住宅街工事を請負、管理にあたった八日市屋清太郎(ようかいちやせいたう)の名が付けられた。ロータリーには「八清由来の碑」が設置されています。昭和7年(17)7月着工～16年(1941)12月落成。中心部には、映画館、公衆浴場、市場までありました。東は昭和公園、西は市民交流センター辺りまで、瓦屋根の長屋、一戸建などの一般住宅650戸と、青年寮2棟、女子寮3棟。突然、近代的な街ができ工場で働く人々が、名古屋を始め各地からやってきて、昭和町の人口は一気に増えた。八清の西隣に「金鶏(きんし)住宅」15年着工・中神宮団住宅18年着工・工場内に工員寮22棟15年建設、すなわち「昭和郷」が誕生した。

記

防犯宮沢支部 西山 禎一

### 陸軍航空工廠の碑

中神町 1315 南雲栄一方



八清映画劇場「昭和15年ごろ」  
昭島市民秘蔵写真集より

